

都内のスギの樹勢衰退状況(写真)

小山 功 大橋 毅

1 はじめに

近年、北欧や北米の山林の高木、特に針葉樹の枯れる現象が目立つようになってきた。その原因は酸性雨等の大気汚染ではないかとみられている。

わが国でも酸性雨により森が枯れるのではないかと関心を呼んでいた。1985年に関口氏は、関東北部のスギ枯れが激しいが、この原因は酸性降下物の影響ではないかという見解を発表した¹⁾。しかし、東京のスギは、それ以前に伐採されてしまったものが多く、衰退の原因は定かではなかった。その極に達したのが1960年代で、歌にまでなった銀座の柳、隅田川の桜など多くの樹木が、環境適応性の強い樹種(木)に置き換えられていった。更に以前でも、上野の山のマツ等が広葉樹に換えられたり、戦争協力や災害救済用の棺桶などにすると理由でスギが切り倒されていった。既に数10年たってしまった現在、何故その樹木だけが集中的に切られたか、本当の理由は定かではない。

東京の西部地域では、現在でもスギやケヤキなどの大木は損傷が激しいものがよくある。

スギは先枯れしても、何年も朽ちることなく、衰退の過程を示してしてくれるが、樹冠が枯れると用材としての価値が落ちるため伐採されてしまうことがよくある。多くの大木が、都市化に比例するように衰退し、伐採のうきめにあっている。そして、伐採されてしまうと、その樹木があったことすら、人々の記憶から薄れてしまう。

本報告は、樹木の樹勢(衰退)状況の現状確認の一環で、まずスギの衰退の現状を緊急的に写真記録しておくものである。

2 スギ写真の掲載基準

スギの地域別生育状況写真、東京では数少なくなった一抱以上ある老木の写真及び損傷原因のはっきりして

いるスギ写真及び衰退度区分写真を示したかったが、紙面の都合上、衰退度区分写真は別の機会に譲ることにした。また、地域別生育状況等の写真も代表的なものだけに限定した。

(1) 地域別生育状況

区部では、スギがみられる地域は極端に少なく、その上、大木はなかった。市部にはまだ大木が残っていた。西部の山岳地域では、樹林面積は広いが、50年生未満の若木が多かった。

(2) 大木

現存の大木は、多摩、町田、八王子、秋川、青梅、五日市、検原、奥多摩でみられたが、都心に近いものほど痛みが激しかった。また同一地域では、胸高直径の大きいものほど痛んでいた。

(3) 原因別の樹冠損傷

落雷、台風、常時の強風害、寒風害、雪害など原因のはっきりしているスギの写真を示した。どの被害も、枯死してしまったもの以外は、樹勢を回復していた。

3 まとめ

数百年数千年も生き続けてきたスギが、広い地域でわずかの期間に急激に衰えていっている。衰退の原因は固結層の介在などの土壌の不適性、病虫害、地下水位の変動、大気汚染、地下水汚濁等が考えられる。原因解明は今後の課題である。

なお、本写真撮影は、スギの衰退の予備調査であったため、1986年9月を中心に行った。

参考文献

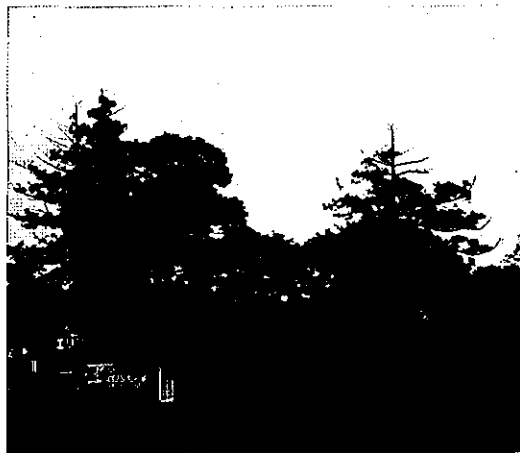
- 1) 関口恭一他：関東地方に於ける酸性降下物とスギ枯れについて、第26回大気汚染学会講演要旨集、349(1985)



町田市下小山田 大泉寺 (8月)



調布市深大寺町 深大寺 (12月)



秋川市牛沼 秋川神社 (6月)



五日市町権沢 大悲願寺 (4月)

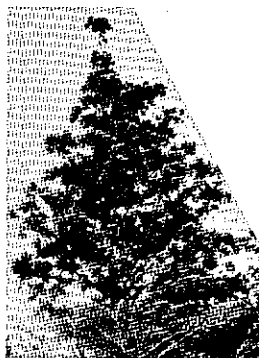


五日市町小中野 子安神社 (4月)

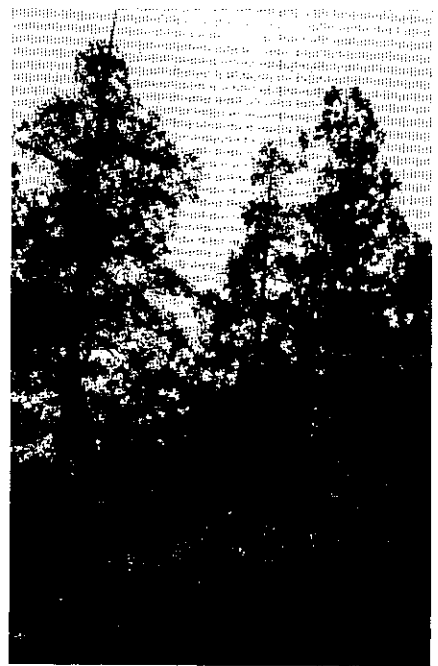
大木 (>80cm ϕ) の被害状況



葛飾区柴又 柴又帝釈天



三鷹市深大寺町 龜島弁財天
(12月)



武蔵野市御殿山 井之頭公園 (4月)



八王子市狭間町 (6月)



町田市相原町 (8月)



秋川市油平 八幡神社 (6月)

地域別生育状況



雪害(直後)の例 奥多摩町(4月)



台風害の例(左より2番目の樹木) 神奈川県相模湖町 ('87年8月)



強風害の例 伊豆七島神津島('87年9月)



落雷の例 埼玉県飯能市('87年6月)



寒風害の例 左手より寒風を受けた。宮城県大和町('87年9月)

原因別の樹冠等の損傷の例